

平成27年度

# 病害虫発生予察情報

第 15 号

## 9 月月報

北海道病害虫防除所 平成 27 年 10 月 15 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

### I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・並照』大気の状態が不安定となる日が多く、28日には竜巻発生－

この期間の天気は、概ね数日の周期で変化した。上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となる日が多く、28日には岩見沢市や苫前町で竜巻などの突風被害が発生した。気温は下旬は平年よりかなり高く、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬は平年より多く、月降水量も多かった。日照時間は上旬は平年より少なく、月間日照時間は平年並だった。

上旬：1日は高気圧に覆われて概ね晴れたが、上空の寒気の影響で雨の降った所があった。2日は低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は登別市カルルスで218.0mmなど。3日は低気圧や気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側で雨が降ったが、晴れた所も多かった。4日は低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は音威子府で71.5mmなど。5日は気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側では雨の降った所が多かったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。6日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で夜には太平洋側を中心に雨が降った。7日ははじめ気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨の降った所があった他は、高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。8日は高気圧に覆われて日本海側やオホーツク海側を中心に晴れた。9日は高気圧に覆われて日本海側北部ではじめ晴れたが、夜には日本海側南部や太平洋側西部を中心に雨が降った。10日は気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側で雨の降った所があったが、晴れた所もあった。

中旬：11日は台風第17号や低気圧の影響で日本海側南部や太平洋側を中心に雨の降った所があったが、晴れた所もあった。日降水量は函館市川汲で56.5mmなど。12日は気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側西部で雨が降った他は概ね晴れた。13日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。14～15日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、上空の寒気の影響で大雨となった所があった。16～17日は高気圧に覆われて概ね晴れた。18日は気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。日降水量は知内で62.0mmなど。19日は低気圧や前線の影響で広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は厚岸町太田で208.0mmなど。20日は低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側南部や太平洋側を中心に次第に晴れた。

下旬：21～22日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。23日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。24日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、気圧の谷が近づいて次第に曇った。25日は気圧の谷の影響で太平洋側では曇ったが、日本海側を中心に晴れた所も多かった。26日は気圧の谷の影響で広い範囲で曇り、雨の降った所もあった。27日は寒冷前線が通過して広い範囲で雨が降ったが、晴れた所もあった。28日は高気圧の張り出しの中ではじめ晴れた所が多かったが、上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。29日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で概ね雨が降ったが、オホーツク海側や太平洋側を中心に晴れた所も多かった。30日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で日本海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所も多かった。

気候表

	気温差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+0.2	並	113	多	98	並
日本海側 10 地点平均	+0.3	並	127	多	93	少
オホーツク海側4地点平均	+0.2	並	102	並	98	並
太平洋側8地点平均	+0.2	並	101	並	105	並

(注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か→かなり」で表しています。

## II. 病害虫発生概況

### A. 水稻

#### 1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 並

予察田の「きらら397」における穂いもちの発生量は、いずれの地点とも平年並であった。節いもちの発生量は、比布町では平年に比べ多く、岩見沢市および北斗市では平年に比べ少なかった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	38.8	36.2	-	-	4
	ななつぼし	34.5	64.8	-	-	4
比布町	きらら397	71.7	72.5	76.0	69.3	10
	ほしのゆめ	67.0	78.6	68.9	76.3	10
北斗市	きらら397	39.0	39.6	-	50.5	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-は成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	2.5	17.6	-	-	4
	ななつぼし	18.5	36.1	-	-	4
比布町	きらら397	13.6	18.2	27.6	6.3	10
	ほしのゆめ	28.9	49.9	60.3	26.7	10
北斗市	きらら397	2.8	10.7	-	14.6	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-は成熟期を迎えたため調査終了

#### 2. 紋枯病 発生量 やや多

予察田における発生量は、岩見沢市では平年並、北斗市では平年に比べ多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	18.0	18.8	21.0	28.0	4
北斗市	きらら397	31.4	15.1	-	15.1	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-は成熟期を迎えたため調査終了

#### 3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町で22%（平年：74.1%）、北斗市では2%（平年：12.5%）といずれも平年より低かった。

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 並 <8月5日付け注意報第2号発表>

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町および比布町で平年より少なかった。北斗市では9月1半旬は平年より多かったが、それ以降平年よりやや少なくて推移した。

予察田における成虫のすくい取り頭数は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや多かった。比布町では捕獲されなかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	25	123.6	0	29.7	64	12.1	2.5	1.7	-	0.3	7.5	1.8
2半旬	20	59.3	0	14.9	1	8.0	1.3	0.0	0	0.4	5.0	1.5
3半旬	-	25.5	1	15.2	4	3.8	-	2.1	0	0.1	5.0	1.0
4半旬	2	13.0	0	13.1	1	2.1	0	0.0	-	0.5	0	0.8
5半旬	1	6.7	0	1.7	0	0.3	0	0.4	-	0.6	-	0.3
6半旬	0	2.8	0	0.2	0	0.1	0	0.0	-	-	-	0.6
平年数	10		10		10		3		10		10	

注)一:未調査

B. 豆類

1. べと病(大豆) 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年に比べ少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	30.0	35.4	29.5	40.9	10

2. アズキノメイガ(小豆) 発生量 並

予察ほにおける被害株率および被害莢率は、いずれの地点も平年並であった。

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

地点	品種	被害株率(%)		被害莢率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	73.0	69.1	4.5	4.7	10
芽室町	きたのおとめ	38.0	36.9	2.6	1.8	10
訓子府町	きたのおとめ	36.0	47.1	3.0	2.1	10

## C. てんさい

### 1. 褐斑病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町の「あまいぶき」および訓子府町の「リッカ」では平年に比べやや少なかった。芽室町の「あまいぶき」では平年並であった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	36.3	-	49.6	-	66.9	-	-
	あまいぶき	57.3	84.4	68.5	93.3	79.7	99.0	5
芽室町	リッカ	61.6	-	74.0	-	92.8	-	-
	あまいぶき	81.6	77.5	86.0	92.0	99.2	97.6	3
	スタウト	57.2	41.3	72.0	55.5	88.8	70.0	7
訓子府町	リッカ	60.8	81.9	70.4	91.8	82.0	96.7	6

注) - : 平年値なし

### 2. ヨトウガ(第2回) 発生量 やや少

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、訓子府町で平年より低く、長沼町および芽室町で平年よりやや低かった。

9月3半旬の巡回調査では、被害株率が50%以上となったほ場は認められなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	39.0	59.2	21	42.9	32	43.4
2半旬	40.0	64.7	24	46.8	34	48.2
3半旬	48.0	73.7	27	49.7	34	54.9
4半旬	52.0	76.9	32	54.3	36	65.2
5半旬	52.5	81.6	38	56.0	37	70.3
6半旬	64.0	81.5	40	56.7	38	71.0
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及センター	地点数	9月3半旬		普及センター	地点数	9月3半旬					
		本年	前年			本年	前年				
空知 南東部	1	2.0%	1.0%	網走	本所	10	2.5%	17.3%			
		7.3%	5.3%			清里	3	3.0%	2.3%		
後志 本所	3	0%	1.7%		網走	2	12.0%	5.0%			
胆振 本所	4	4.5%	6.0%		美幌	6	6.0%	11.0%			
		東胆振	3		0.5%	1.3%	遠軽	9	2.2%	15.4%	
上川 大雪	3	10.0%	8.0%		十勝	本所	4	3.0%	18.3%		
		士別	2				0%	0.0%	東部	6	0.7%
		名寄	1			8.0%	16.0%	東北部	4	3.5%	3.5%
						北部	3	0%	4.0%		
						西部	3	2.7%	8.0%		
				南部		3	0.3%	5.7%			

## D. あぶらな科野菜

### 1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおけるだいこん（夏播き）の軟腐病の発生量は、平年に比べやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	2.5	4.5	4.5	5.8	4.5	5.9	10

### 2. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より少なく、長沼町では平年並であった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	12	19.8	5	-
2半旬	8	14.9	1	14.2
3半旬	7	19.1	1	-
4半旬	36	29.3	3	14.7
5半旬	36	21.2	1	-
6半旬	44	21.3	2	13.2
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生幼虫数

### 3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町および訓子府町で少なく、北斗市で平年並であった。芽室町では誘殺されなかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より少なく、長沼町では平年より多かった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数と予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町		寄生幼虫数			
									長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	11	30.7	6	7.0	0	1.2	0	1.8	12	5.8	3	-
2半旬	5	30.8	5	7.3	0	0.4	0	1.2	5	5.1	2	15.4
3半旬	6	20.8	8	9.7	0	0.2	1	0.4	10	3.7	0	-
4半旬	16	16.5	15	4.9	0	0.4	0	1.3	10	2.9	0	5.6
5半旬	11	8.5	9	8.5	0	0.6	0	0.7	8	2.0	2	-
6半旬	19	9.0	4	8.2	0	0.3	0	0.7	10	1.1	1	3.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

注 2) 寄生幼虫数は10株あたりの値

## E. りんご

### 1. 黒星病 発生量 少

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、「昂林」、「つがる」とも平年より少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では発生が認められなかった。

9月3半旬の巡回調査の報告によると、一般園における発生は認められなかった。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	35.6	47.0	18.3	23.0	6
	つがる	18.0	43.2	11.6	21.1	6
余市町A	つがる	0	0	-	-	10
余市町B	つがる	0	0	-	-	10

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除あり)は9月4週目のデータ

注2)-は調査項目外

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		本年	前年
後志 北後志	4	0	0
胆振 本所	1	0	0
渡島 本所	1	0	0
留萌 南留萌	1	0	0

### 2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における「王林」の発生量は、平年に比べ少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園における病葉率はいずれの地点とも前年並みであった

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	2.3	11.8	1.3	7.6	5
	王林(徒長枝)	1.3	7.6	0.04	0.1	5
余市町B	つがる	0	0.1	-	-	10

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除あり)は9月4週目のデータ

注2)-は調査項目外

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		本年	前年
後志 北後志	4	0	0
胆振 本所	1	7.0	8.0
渡島 本所	1	9.7	16.0
留萌 南留萌	1	34.0	29.0

### 3. モモシクイガ 発生量 やや多

長沼町の予察園における産卵数は、平年より多かった。予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点も平年より多かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市および壮瞥町で平年よりやや多く、その他の地点では平年並であった。

予察園における産卵数、被害果率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	218	62.3	100	91.2	44	25.6	36.7	17.9	29.8	18.6
2半旬	100	31.9	100	92.1	91	12.1	18.6	8.7	22.5	8.2
3半旬	64	8.3	100	91.3	40	5.2	7.5	4.4	18.8	2.9
4半旬	-	-	100	100.0	4	1.7	3.5	2.1	5.3	3.3
5半旬					3	0.1	2.0	0.8	1.5	0.1
6半旬					0	0.0	0	0.1	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10	

注1)産卵数は100果あたり

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注3)-:未調査

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0.1	1.4	3.1	2.0	19.4	20.2	5.0	3.5	13.5	10.8
2半旬	0.4	1.3	2.3	0.5	12.6	12.7	2.9	2.3	6.2	7.5
3半旬	2.0	0.5	1.7	0.1	2.5	6.3	1.5	0.4	4.3	4.0
4半旬	0	0.1	0	0.0	2.5	4.9	1.2	0.2	3.2	1.3
5半旬	0	0.0	0	0.0	2.0	0.2	1.0	0.0	3	0.7
6半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1.0	0.0	0	0.5
平年数	10		10		10		10		6	

注1)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

### 4. ハダニ類 発生量 やや少

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、余市町Aで平年より少なく、長沼町で平年より多かった。ナミハダニの発生量は、余市町Aで平年より少なく、長沼町で平年並であった。余市町Bではリンゴハダニ、ナミハダニとも発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	50	1.9	2	-	0	-	24	7.6	2	-	0	-
2半旬	0	0.7	0	3.3	0	9.0	0	5.7	0	4.1	0	6.6
3半旬	15	0.3	-	-	-	-	3	6.8	-	-	-	-
4半旬	-	0.7	0	3.6	0	14.2	-	4.9	0	4.1	0	3.1
5半旬	0	0.2	0	-	0	-	2	3.2	0	-	0	-
6半旬	0	0.0	0	0.7	0	4.5	0	0.0	0	2.5	0	5.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生虫数

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

## 5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、いずれの地点も平年並であった。予察園のフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年並、余市町Aでは平年より少なく、余市町Bでは平年よりやや少なかった。一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、すべての地点において平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	20	32.9	2	-	0	-	63	149.5	162.8	618.6	30.2	248.5
2半旬	36	32.8	1	2.9	0	1.0	120	105.4	188.8	724.1	103.6	301.5
3半旬	33	35.6	-	0.7	-	0.0	134	83.2	111.9	493.5	160.0	220.0
4半旬	-	39.4	2	2.9	0	1.2	33	36.0	89.4	436.5	100.6	91.5
5半旬	50	45.1	0	0.4	3	0.0	15	6.8	70.8	211.6	69.0	27.5
6半旬	47	47.3	2	2.6	0	1.0	6	2.3	19.2	56.3	21.7	16.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	3.6	147.9	4.6	24.9	12.5	20.3	122.1	607.1	1.7	78.2	88.3	250.5
2半旬	2.9	87.7	4.5	17.8	10.6	33.1	142.5	789.8	2.9	119.5	161.4	378.2
3半旬	8.3	25.5	2.5	5.2	7.8	17.1	156.0	559.8	3.3	161.4	161.8	483.6
4半旬	3	7.1	0.8	1.0	7.8	9.8	89.4	505.6	0.9	161.9	173.3	388.2
5半旬	2	3.3	0.8	0.2	6.3	10.0	45.0	201.0	1.4	77.8	190.5	282.8
6半旬	0	2.9	0.5	0.1	0	2.9	45	124.4	1	39.5	145.2	107.4
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町:2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町:1地点

## 農薬は適切に保管管理及び処分しましょう!!

### ■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり、農薬の使用も少なくなってきますが、次年度に向けて適切に保管管理を行ってください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められているので、これを遵守してください。  
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしましょう。  
※ 昨年、道内でも飲料ペットボトルへの移し替えによる誤飲事例がありましたので、絶対に移し替えはしないようにしましょう。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。  
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。  
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器に農薬が残らないよう容器内の農薬を適切に除去してください。

---

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

